

令和3年8月

■一般文学

「緑の窓口 樹木トラブル解決します」

・著: 下村敦史

・出版社: 講談社

不器用な区役所職員の天野優樹が異動を言い渡されたのは、新しく設置された「緑の窓口」。みなさんの思い浮かべる、あの切符を買う「みどりの窓口」ではありません。そこは、市民の樹木トラブルを解決する部署なのです。

異動早々、依頼がやってきて向かってみれば、スギを愛でながら樹木医と名乗る先客がいたのです。樹木医とは、専門的な知識により、あらゆる樹木の病気の予防と治療を行う、文字通り、樹木のお医者さんです。これから繰り広げられる6つの連作ミステリーでは、彼女の力を借りて樹木の謎を解きながら、人の心と樹木をつないでいきます。

各務原には、公園、神社、森、そして図書館の周りにも樹木がたくさんあります。ふと、あそこのあの樹を想いながらの読書なんてのもいかがでしょうか。

(対象 一般)

■一般書

「日本語びいき」

・文: 清水由美

・絵: ヨシタケシンスケ

・出版社: 中央公論新社

外国人に日本語を教える日本語教師である傍ら、日本語教師養成講座の講師も務めている著者は、受講者の多くが『日本語の素顔を「知らない」』と気づきます。

本書は、「ら抜き言葉」「れ足す言葉」「させていただく」は正しい日本語なのかといった文法に関する章や、「成田空港」の読み方は本当に「なりたくこう」なのかといった発音についての章など全20章で構成されている。また、外国人からの思いがけない質問に対して、著者の答えとは。

(対象 一般)

■児童書

「大どろぼうホッツェンプロッツ」

・作: オトフリート・プロイスラー

・訳: 中村浩三

・絵: フランツ・ヨーゼフ・トリップ

・出版社: 偕成社

カスパールがおばあさんの誕生日にプレゼントしたコーヒーひきが、大どろぼうホッツェンプロッツに盗まれました!! 友だちのゼッペルといっしょに、ホッツェンプロッツを捕まえる大追跡に乗り出すカスパール。黄金に見せかけた砂、コショウピストルなど、少年と大どろぼうの知恵比べが始まります。2人は無事、ホッツェンプロッツを捕まえることができるのでしょうか?

世界中の子どもたちに大人気のシリーズの1作目。おもしろく読めたら2作目、3作目もどうぞ!

(対象 小学中学年から)

■児童書

「富士山のまりも」

・文: 亀田良成

・絵: 斎藤俊行

・出版社: 福音館書店

50年前、作者が小学生だった時に、自由研究のために採集して、観察したフジマリモをそのまま自宅で育て続けていた。そのマリモがいつのまにか本家の山中湖では絶滅の危機に瀕していることを知り、国立科学博物館に連絡したら、「幻のマリモ大発見」と話題になったという実話絵本。

マリモを採集した経緯では、作者の奇跡的な運の良さが幸いしている。フジマリモが発見された年の夏に初めて山中湖に行き、出会い、4つ採集し、2年後の5月、自由研究のために再度、採集するために行きますが、翌月に天然記念物に指定され、採集禁止になってしまった。そのため、他にそのマリモを持っている人がほとんどいなかったと思われる。

一人の小学生の自由研究が大発見と言われるほどに話題になったというこのお話、是非夏休みに一度読んでみてください。

(対象 小学中学年から)